

## 第 編

POPs 農薬無害化处理技術実証試験等

## 第 1 部

### POPs 農薬無害化处理技術実証試験結果

## 第1章 平成14年度実証試験対象技術の選定

本年度は、平成13年度の実験規模施設における実証試験結果を踏まえて、昨年度の実証試験から、更に検討を要すると考えられた点を明らかにするために、昨年度と同じ施設を対象とした。これらの実験規模施設に加え、実規模の施設での実証試験も対象とした。また、検討会において、POPs条約の検討過程における暫定的数値として、POPs処理目標値としてシックスナイン（99.9999%）の除去率が提案されている旨の報告があり、これらの情勢を考慮する必要があるとの意見があった。そこで、平成14年度は、上記の2技術について追加試験および実規模の施設で実証試験を行うこととした。

なお、追加試験に際しては、以下の点についての改善・追加を行った。

- ・施設全体を通してのPOPsの分解率を99.9999%レベルまで追跡できるように農薬量等を設定する。
- ・「直接熔融キルン方式」では、DXNsの再合成の可能性を検討するために、当該試験炉のBF等を新しいものと交換した。また、焼却試験に際しても、助燃材として灯油を使用することとした。
- ・「外熱式乾留炉 + 二次燃焼炉」では、燃焼温度を高めて試験を行うこととした。また、乾留炉に投入する助材として廃水処理汚泥の代わりに一般土を使用することとした。なお、HCBの分析を行う。

また、実規模施設については、産業廃棄物とPOPs農薬の混焼を行い、POPs等農薬の分解率やその他の環境影響について検証することとした。

これらの考え方に基づいて、第2章に示すような実験計画を策定した。